

問1 千葉県の東京湾沿いの地域には、石油・石炭製品を扱う大規模な工場が集中しています。このような工業が、内陸部ではなく特に臨海部に立地している理由として最も適切な説明を次から選びなさい。（2021年 福岡県公立入試 類似）

1. 製品を消費地である東京都心へ、船を使って短時間で運搬するため。  
2. 大規模な工場用地が確保しやすく、原料の輸入に便利だから。  
3. 工場から出る排気ガスによる大気汚染の影響を、海風で最小限に抑えるため。  
4. 冷却水として大量の真水を確保するため、大きな河川の河口付近が選ばれたから。

問2 千葉県は、巨大な消費地である東京に近いという立地条件を活かし、野菜や花きを生産して高い産出額を上げ、鮮度が重視される作物を迅速に出荷しています。このような、都市の周辺で行われる農業の形態を何と呼びますか。（2018年 福島県公立入試 類似）

1. 近郊農業  
2. 促成栽培  
3. 抑制栽培  
4. 粗放的農業

問3 関東地方の1都3県における人口の動向について、埼玉県や千葉県、神奈川県では、東京都とは対照的に「夜間人口が昼間人口を上回る」という傾向があります。この背景にある、都市の中心部の地価高騰などによって居住地が郊外へ移り、周辺の県が「ベッドタウン」としての役割を持つようになった社会現象を何と呼びますか。（2024年 三重公立入試 類似）

1. ドーナツ化現象  
2. 過疎化  
3. Uターン現象  
4. インバウンド

問4 関東地方の各県の交通と位置関係について述べた文として正しいものはどれですか。東京都の北側に埼玉県があり、その埼玉県からさらに北西へ進み、長野県へと抜けるルート上に位置する県を選びなさい。（2016年 静岡公立入試 類似）

1. 群馬県  
2. 栃木県  
3. 山梨県  
4. 千葉県

問5 関東地方の各都県の工業について述べた次の文のうち、2011年の統計において製造品出荷額の合計が約11兆9000億円にのぼり、化学や石油・石炭製品、鉄鋼などの重化学工業を主体とする千葉県の特徴を説明しているものはどれですか。（2015年 千葉県公立入試 類似）

1. 印刷業や出版業の割合が他県に比べて高く、出荷額合計は約8.9兆円である。  
2. 自動車などの輸送用機械の割合が最も高く、出荷額合計は約17.9兆円に達する。  
3. 化学・石油・鉄鋼を中心とした大規模な工場が集まり、重化学工業の割合が突出している。  
4. 情報通信機械器具などの電気機械工業の割合が高く、内陸型の工業が発達している。

問6 日本の都道府県の統計において、人口密度が1平方キロメートルあたり1,000人を超え、人口が増加傾向にある県があります。この県は、大規模な工業地域を背景とした高い製造品出荷額を誇ると同時に、全国でも上位の野菜産出額を記録しているのが特徴です。この県はどこですか。（2024年 新潟県公立入試 類似）

1. 千葉県  
2. 秋田県  
3. 宮城県  
4. 神奈川県

問7 千葉県の主要な道路の整備は、当時の日本の社会情勢と深く関わっています。1960年代から1990年代にかけての交通インフラの整備と、その背景となった出来事の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2018年 千葉県公立入試 類似）

1. 池田内閣が所得倍増計画を掲げた1960年代に、京葉道路が開通した。  
2. 公害問題を受けて環境庁が発足した1970年代に、東京湾アクアラインが開通した。  
3. 地球温暖化防止京都会議が開催された1990年代に、東関東自動車道の宮野木から富里間が開通した。  
4. 所得倍増計画が進められていた1960年代に、東関東自動車道と東京湾アクアラインが同時に完成した。

問8 ある地域の常住人口（夜間人口）に対する、昼間その地域にいる人口の割合を「昼夜間人口比率」と呼びます。東京都のように、この数値が100を大きく上回る都市において、人口がこのように変化する主な理由として適切なものはどれですか。（2025年 秋田公立入試 類似）

1. 周辺の地域から、仕事や通学のために多くの人々が移動してくるため  
2. 東京都の合計特殊出生率が周辺の県と比較して極めて高いため  
3. 東京都は面積が狭く、1平方キロメートルあたりの人口密度が高いため  
4. 観光客が夜間に宿泊施設を求めて周辺の県へ移動するため

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 2</b> 大規模な工場用地が確保しやすく、原料の輸入に便利だから。	石油・石炭製品の製造には広大な敷地が必要です。千葉県の臨海部は大規模な埋め立てによってその用地を確保してきました。また、日本は石油資源のほとんどを海外に依存しているため、原料を運ぶ大型船が直接接岸できる臨海部は、原料の輸入に便利であるという決定的な利点があります。このような背景から、京葉工業地域では化学工業や石油・石炭製品の割合が高くなっています。
問2	<b>答え 1</b> 近郊農業	千葉県のように大都市の周辺に位置する地域では、消費地までの距離が近いことを活かして、収穫から短時間で届ける必要がある野菜や花きを栽培する「近郊農業」が発達しています。輸送費が抑えられるほか、消費者のニーズを素早く生産に反映できるという利点があります。
問3	<b>答え 1</b> ドーナツ化現象	都市の中心部で地価が上がったり、環境が悪化したりすることで、住居を求めて人々が周辺の郊外や近隣の県へと移り住む現象を「ドーナツ化現象」と呼びます。これにより、東京都周辺の県では居住者（夜間人口）が増える一方で、昼間は都心部へ仕事や学校に向かうため、昼間人口が夜間人口を下回るという逆転現象が生じています。
問4	<b>答え 1</b> 群馬県	関東地方の白地図において、東京都から北へ向かうと埼玉県に到達します。そこからさらに北西、つまり日本海側や信越地方へ向かう方向に位置するのが群馬県です。このルートは北陸新幹線の経路とも一致しており、埼玉県と長野県の間に挟まれるような地理的關係にあります。
問5	<b>答え 3</b> 化学・石油・鉄鋼を中心とした大規模な工場が集まり、重化学工業の割合が突出している。	千葉県は、京葉工業地域において原材料の輸入や製品の輸出に便利な臨海部の特性を活かし、化学、石油・石炭製品、鉄鋼の3業種で出荷額の半分以上を占める産業構造を持っています。選択肢にある輸送用機械中心の構成は神奈川県（京浜工業地帯）、印刷業の高さは東京都、情報通信機械の高さは山形県などの特徴に該当します。
問6	<b>答え 1</b> 千葉県	千葉県は東京に隣接しており、人口密度が非常に高く増加傾向にあります。産業面では、東京湾沿いに広がる京葉工業地域による高い製造品出荷額と、大消費地に近い利点を活かした近郊農業による高い野菜産出額を両立しているのが大きな特徴です。一方、秋田県や宮城県は千葉県ほどの人口密度はなく、神奈川県は工業は極めて盛んですが、野菜産出額は千葉県の方が高い傾向にあります。
問7	<b>答え 1</b> 池田内閣が所得倍増計画を掲げた1960年代に、京葉道路が開通した。	1960年代は高度経済成長期であり、池田勇人内閣が「所得倍増計画」を推進して経済の拡大を図っていました。この時期のインフラ整備として千葉県では京葉道路が開通しました。一方、環境庁の発足は1971年（1970年代）であり、同時期に整備が進んだのは東関東自動車道です。東京湾アクアラインの開通は1997年（1990年代）であり、地球温暖化防止京都会議（COP3）と同じ時期にあたります。
問8	<b>答え 1</b> 周辺の地域から、仕事や通学のために多くの人々が移動してくるため	昼夜間人口比率は、夜間人口に対する昼間人口の割合を百分率で示したものです。東京都はオフィスや学校が集中しているため、昼間に周辺の県から通勤・通学者が流入し、昼間人口が夜間人口を大きく上回ります。逆に、住宅地が多い周辺の県（ベッドタウン）では、この比率が100を下回る傾向があります。